

アザミウマ類

野菜・花き類を加害するアザミウマは多数の種が確認されているが、本県の主要作物の加害種は、ミカンキイロアザミウマ、ヒラズハナアザミウマ、ネギアザミウマである。アザミウマ類は微少な昆虫で、比較的大きなミカンキイロアザミウマ雌成虫でも体長 1.7mm 程度であり、同定には顕微鏡による微細な形態の観察が必要である。

ミカンキイロアザミウマ *Frankliniella occidentalis* (写真1)

トマト、キュウリ、イチゴ、キクなど多くの作物で被害が確認されている。平成6年に本県への侵入が確認された北米原産の侵入種である。食害や産卵による直接的な被害として、トマトやイチゴの果実被害、花き類での花弁の変色などが生じる。また、TSWV（トマト黄化えそウイルス）や INSV（インパチエンスネクロティックスポットウイルス）の媒介能力が高いため、トマト、キク、トルコギキョウなどでは特に重要な害虫である。各種薬剤に対して抵抗性が発達していることが報告されており、キュウリ、キクなど防除圧が高い作物では優占種になっていることが多い。

ヒラズハナアザミウマ *Frankliniella intonsa* (写真2)

広範な植物に発生し、花粉を好むため主に花に寄生する。ミカンキイロアザミウマと同じ *Frankliniella* 属の在来種であり、ミカンキイロアザミウマ同様トマト、イチゴの果実被害、花き類での花弁の変色などの被害が生じる。また、低率ながら TSWV 及び INSV を媒介する。ほ場周囲のシロツメクサなどの雑草では本種が優占している場合が多い。

ネギアザミウマ *Thrips tabaci* (写真3)

ネギやアスパラガスなどで被害が見られる。ネギでは葉を中心にカスリ状の白斑（写真4）を生じる。萌芽直後のアスパラガス若茎に多数寄生すると茎が屈曲することがあり問題となっている。また、IYSV（アイリスイエロースポットウイルス）を媒介するので、トルコギキョウ等の栽培では注意が必要である。

ミナミキイロアザミウマ *Thrips palmi* (写真5)

昭和 63 年に本県への侵入を確認し、施設栽培のキュウリなどで被害が発生した。本県では冬期加温施設以外では越冬できないと考えられており、現在は施設キュウリや施設トルコギキョウで稀に確認されることがある。葉や花に寄生し、ナス、ピーマン、キュウリ等では果実被害が生じる。また、本県では未確認の MYSV（メロン黄化えそウイルス）を媒介する。ミカンキイロアザミウマとは異なり、ネオニコチノイド系の薬剤の効果が高く、定植時に粒剤処理を行うことで長期間発生を抑制できる。なお、他県ではネオニコチノイド系薬剤の感受性低下事例があり注意を要する。

クロゲハナアザミウマ *Thrips nigropilosus* (写真6)

キクでは主に葉、生長点部、花に寄生し、葉のかすり症状や生長点部の引きつりやケロイド状などの奇形（写真7）、葉裏のシルバリング、花弁の変色被害を生じる。

防除対策

アザミウマ類は種によって効果的な薬剤が異なる場合があるため、発生しているアザミウマ類の種を特定することが重要である。

春から秋にかけては周辺の雑草地等で増殖し、常時成虫の飛び込みがあること、生育過程で植物組織中の卵や土中の蛹など薬剤がかかりにくいステージがあることから薬剤のみの防除では十分な効果が得られない場合がある。このため、耕種的防除、物理的防除等も取り入れた総合的な防除を行う必要がある。

- 1 アザミウマ類の発生源となるほ場内外の除草を徹底する。
- 2 ほ場内への侵入を抑制するため、ほ場の周りに光反射資材を設置する。
- 3 摘葉や摘芯等により生じた残渣には、アザミウマ類が寄生している場合があるので、放置せずビニール袋に密閉するなどして適切に処分する。
- 4 定植期に使用可能な薬剤がある場合は施用するとともに、ほ場内の発生状況をよく観察し、発生初期に薬剤防除を行う（青色粘着板の設置により発生状況を把握することができる）。
- 5 薬剤抵抗性の発達を防止するため、系統の異なる薬剤によるローテーション散布を行う。
- 6 施設栽培では施設内への侵入防止のため、開口部に 1mm 目合い以下の防虫ネットを設置する（赤色ネットの抑制効果が高いことが知られている）。
- 7 施設栽培では近紫外線除去フィルムで被覆することで、施設内への侵入を抑制することができる（ミツバチや作物の種類によっては影響がある）。
- 8 施設栽培では栽培終了後に施設外へのアザミウマ類の拡散を防止するため、施設を密閉して植物体を完全に枯死させた後、一定期間施設内のアザミウマ類を死滅させる蒸し込み処理を行う。



写真1 ミカンキイロアザミウマ雌成虫
(農業総合センター作物保護科原図)



写真2 ヒラズハナアザミウマ雌成虫
(農業総合センター作物保護科原図)



写真3 ネギアザミウマ雌成虫
(アルコール液浸)

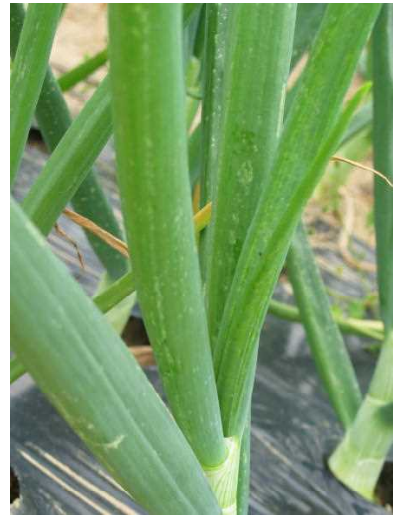


写真4 ネギアザミウマによるネギ葉の被害



写真5 ミナミキイロアザミウマ雌成虫
(プレパラート標本)



写真6 クロゲハナアザミウマ雌成虫



写真7 クロゲハナアザミウマによる
キク生長点部の被害



写真8 アザミウマ類によるキク花卉の
かすり状被害